

特集

歴史と文化が香る 信州中野の秋祭り

※この特集は平成26年11月に行われたものです。

信州中野の秋の夜。市内各
地区で秋祭りが行われ、心待ち
にしていた地域の皆さんは自然
と笑顔に包まれます。

獅子舞の華麗な舞や、笛と太
鼓の心弾ませる音色は、今と昔
をつなぐ「歴史と文化」を運ん
でます。

日本の祭り文化

祭りの本質は神の歓待^{かんたい}です。普遍的な願いである天下泰平、五穀豊穡^{ごこくほうじやく}など、人々の祈りや感謝を伝えるために、神を招き、仕え、奉るとともに供え物や芸能娯楽をもって神々をもてなします。神は人と似て非なるものですが、民俗の世界では人が喜ぶことは神も喜ぶと考えられており、それが今日の祭りで行われる芸能の基礎となっています。

また、政治のことを「まつりごと」とも呼ぶのは、古代日本では、祭祀^{さいし}を司る者と政治を司る者が一致した体制であったためといわれています。

祭りの目的

農村に於いての祭りは、春祭り^{はるまつり}と秋祭り^{あきまつり}に分かれて行われることが多いですが、その目的としては、春はその年の豊作を祈り、秋は収穫に感謝する祭りとされています。そのため、春祭りにはどこことなく緊張感がありますが、秋は緊張から解放された人々が一丸となって収穫を喜び合うため、大変賑やかなものとなります。

娯楽の少ない時代、祭りは村人が一同に集まる貴重な機会であり、そこで奉納される芸能を皆が楽しみました。それは同時に来訪した神を「皆でもてなすこと」と同義でもありました。



④



⑤



②



③



①

芸能の起源と伝承

お祭りの獅子舞やお囃子が自発的に作られたという所はほとんどありません。ほかの地域から学んだり伝わったものが発祥の起源となる場合が多く、獅子舞やお囃子は、近隣の村や地域とともに密接な関係にあります。

例えば、神楽に三味線を用いるところをよく「イタコ」と呼びますが、この三味線を用いた神楽が市内南部の延徳、平野、高丘一帯に広がっています。市内だけでなく、その範囲が小布施町や長野市豊野方面へと街道筋に沿っていることから、道中で伝え合ったのではないかと考えることができます。

また、竹原区で行われる花火は、秋祭りの奉納花火の先駆的存在であり、これが起点となって、市内各地で奉納花火を上げるようになったといわれていることも大変興味深いものです。

信州中野と祭り

市内北部では、獅子舞を行わず大太鼓を盛大に叩き鳴らし、獅子舞の代わりに奉納する様子も見られます。このように、市内だけでも数多くの特徴を持った獅子舞やお囃子が存在します。

「大勢の人が皆で楽しむ。」祭りの本質であるこのことは、昔も今も変わりはありません。さあ、信州中野の祭りを知り、生まれ育った地域の祭りに思いを馳せてみましょう。そこにはきっと、過去から脈々と続く、地域の歴史と文化の香りを感じとれるはずです。

【参考資料】ふるさとの祭り（中野市中央公民館・高井地方史研究会）



⑦



⑥